

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） この医療問題、そして離島振興法関係ございます。

ただ、その中を通じて言えることは、なかなか理解ができない、市長が。その根本にあるのは、私がいつも言うんですけど、この職員の採用ひとつについてもそうじゃないですか。条例による採用、2条1項の採用なのか、2項の採用なのかというと、1も2も一緒だという。じゃ、条文は要らないんです。

そのような、人間として基本的なずれがある。それが、今のような問題を生んだるんです。そのずれを早く解消しなきゃいけない。それは、何度も言うようやけども、初心に戻って、周りの仕事を片づけて、そして別の分野で頑張っていたきたい。

以上。

○議長（作元 義文君） これで、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食のため、暫時休憩します。開会を1時から行います。

午前11時21分休憩

午後0時58分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。新政会、1番議員の春田新一でございます。一般選挙から半年が過ぎました。私、先輩議員の御指導を仰ぎながら議員活動に力を入れているところでございます。また、ことしの流行語で「おもてなし」「倍返し」、もう一つありましたが、三つありましたが、きょうはこの二つを取り入れた一般質問をしてみたいというふうに思います。

また、先ほど先輩議員の小宮議員が、密度のある質問で、私はちょっと緊張をしておりますが、私なりに質問をさせていただきます。

まず、通告のとおり1点目でございます。島の中に点在する文化財ということで、質問をしてみたいと思います。

国指定文化財24カ所、国選択の無形民俗文化財というのが6カ所、県指定文化財が41カ所、市指定が123カ所と、このような文化財がある中、大変島が長いわけで、かなりの文化財が点在をしているということでもあります。

周辺整備はどのようになされているのかということなんですが、観光客にしてみますと車で降りて見れる、または駐車場があるところは観光客にも大変好評を呼んでいるところじゃなからう

かというふうに思っております。

また、そういうことでほかの方面も、道路までということにはなりません、文化財、山の中腹、山腹にある文化財にどこまで足を運んでいかれるのか。そこら辺の整備というのに、ちょっと質問したいというふうに思っております。

それと、この2番目でございますが、伝承芸能ということで、このことについて、継承についてどのように教育委員会、また、伝承芸能にかかわる人をどのように考えておられるのかということなんですが、やはり、伝承芸能というのは、大変古くから伝わっているものをずっと継承していくということは、なかなか難しい問題がある。一つ言えるのが、人口減少時代の到来や人のつながりの希薄化などにより、地域の姿が大きく変わっている。このことが一番大きな要因じゃないかというふうに思っております。

しかしながら、島の中にある伝承芸能をどのように継承していかれるのか。これを質問をさせていただきます。

次に、2点目でございますが、比田勝認定こども園の進捗状況と現在までの経過について、そしてまた、教育委員会、各団体との協議が何回となくやられていると思いますが、そのような経過はどのようになっているのか、お尋ねをいたします。

それと、まずもってこの比田勝認定こども園が、旧上対馬町役場跡地に決定するなら、その周辺道路、または駐車場、子供たちの安全面、または保護者の安全面を考慮して、どのような方策、方向性でやられるのか、そこら辺を質問をいたします。

3点目でございます。3点目、私、同僚議員と同じ質問内容を、通告がされているということで、少し変わった方向でやらしてもらいますが、本来なら、新ターミナル建設計画についてと、その周りの周辺整備についてお尋ねをするということなんですが、今回は比田勝港の埋め立て地の利用方法と整備についてということでお尋ねをします。

それと通告はしておりませんが、網代の国内ターミナルの周辺、その辺の道路関係の質問を少し、通告はしてませんがさせていただきます。

この、網代の新国内ターミナル、きれいな建物ができて、本当に船に乗って行かれる人は安心して行ってあるわけですが、やはり、これは市と県の連携が取れていないというか、道路も完成をしないうちに船だけが走ったということで、本当に旅行客もそうですが、歩道も整備がされなまま、そのまま砂利道を歩いて、ハンドバッグを引っ張って今行っている状況でございます。この辺をどのように捉えてあるのか、お尋ねをいたします。

また、埋め立て地でございますが、この埋め立て地は、皆さん方もわかるように非常に比田勝の一番中心街にある埋め立て地でございます。ここで、商店街に買い物される駐・停車場、そしてまた、韓国からの観光客のバスの駐・停車場、それと、地産地消の面で朝市が行われておりま

す。その駐車場としても広く皆さん利用されております。

その辺の中、今まで区からも陳情は上がっていると思いますが、なぜ、舗装がされないのか。県と市との県有地、市有地等の関係がありましようけど、一日も早く砂利道を舗装に変えていただきたいというふうに思って、質問をいたします。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 春田議員さんの御質問にお答えをいたします。

文化財保護と周辺整備についてでございます。

対馬市に残る文化財は、先ほども言われましたように、国指定の文化財として重要文化財、史跡、天然記念物、名勝などが24件、国選択の無形民俗文化財6件、県指定の文化財が41件、市の指定文化財が123件指定をされております。

文化財の保護と周辺整備ということでございますが、昨年10月の渡来仏と一部の大蔵経の盗難については、議員御承知のとおりでございます。

まず、このような有形文化財の防犯のため、昨年12月に防犯施設設備の市持ち出し分の補助率を2分の1から5分の4にふやし、市内有形文化財の所有者へ防犯設備の設置をお願いし、防犯強化を図っているところでございます。しかしながら、有形文化財の多くは寺院、神社等の御本尊、御神体であったりするなど、直接観光に結びつかないものもございます。

また、点在する史跡、文化財でございますが、清水山城、金田城など、観光客が多く訪れる国指定の史跡等は、現況に応じて、随時、清掃、除草を実施いたしております。しかし、史跡、埋蔵文化財等については、小高い丘、岬の先端などの人里離れたところに存在し、観光客が往来するには不便なところにあるものが多く、山道、けもの道のようなところも多くございます。

教育委員会としましては、文化財を保護する立場として、史跡等がイノシシ、鹿等によって被害を受けるケースもあっておりますので、随時保護に努めてまいりたいというふうに思います。

また、地域の宝として、市民との協働で清掃活動を実施した例もありますので、協力を呼びかけ、一緒に汗をかいていただき、文化財の保護、環境保全に努めたいと考えております。

次に、島内特有の伝統芸能の伝承のあり方についてでございます。

対馬市内に現在残っている伝承芸能の中で、本来の伝統形式にのっとり継承されているものは、盆踊りなど5団体が存続し、そのほか、伝承する意味で子供たちが行っている盆踊りが2団体、そのほか、大会などに参加されている郷土芸能の団体が数カ所残っている状況であります。

12月1日に、対馬島郷土芸能発表会が開催されましたが、伝統芸能保存会の方々の御協力により、毎年開催され、郷土芸能の継承、発掘の手だてのひとつとなっております。

また、10月20日には、県主催の長崎県子ども会伝承芸能大会が豊玉の公会堂で開催され、

子供たちの熱い演技に心打たれ、伝統文化の継承の大切さを改めて感じたところであります。

各地区に伝えられております伝統芸能が、人口の減少に加え、地域の高齢化、職場環境の変化等により、途絶えてきている現状でございますが、最近では、伝統芸能文化の継承の大切さを感じられている方々が少しずつふえているように思います。

文化財課としては、この対応策として、対馬の伝統文化が地域の世代交代により、絶えていくことを危惧し、継承していく手段として、平成22、23年度デジタルアーカイブ事業として、地域の伝統文化事業を映像化し、デジタル保存をしたところでございます。

今後は、この映像を市民の皆さんと共有する機会を創り出し、対馬の伝統文化の継承に努めていきたいと考えております。特に、伝統文化の継承のための子供たちの活動においては、子ども夢づくり基金を活用し、今まで以上に支援していきたいというふうに考えております。

大きい2点目の比田勝認定こども園の進捗状況についてでございます。

認定こども園につきましては、平成22年6月、平成24年3月定例会において一般質問を受け、答弁をしております。現在も幼保連携型の認定こども園として建設する方向で進めているところでございます。

現在までの経緯、協議でございますが、本年度当初予算で認定こども園の調査、測量及び実施設計が措置されたことを受け、本年6月に、福祉保健部と合同の地区・保護者説明会を比田勝で開催いたしました。

そのときにいただきました御意見の中に、「認定こども園として行うに当たって、市の考え方や施設の管理運営のあり方、また新たな施設を比田勝に建設しなくても、他の施設を代用することで経費を縮減することができるのではないか」という御意見をいただきました。

その後、7月18日に比田勝幼稚園の保護者を対象に説明会を開催し、並行して、福祉保健部におきましても、比田勝保育所及び泉保育所の保護者説明会を開催しているところでございます。

8月から10月にかけて、福祉保健部との協議を行う中、説明会での意見を整理し、改めて（仮称）比田勝認定こども園整備方針の概要により、まず、現場で働く幼稚園教諭及び保育士を対象とした説明会を開催したところでございます。

そして、11月に再度、幼稚園保護者説明会を開催し、特に、幼稚園保護者から御意見が出されておりました、他の施設を利用してはということに対しましては、予定しております旧上対馬町役場跡地に建設することで、説明をいたしましたところ、異論もなく、認定こども園としての建設計画に御理解をいただけたものと判断したところでございます。

保育所におきましても、保護者説明会及び職員へ同じように整備方針の概要も含めて説明会を開催しております。建設地としまして、先ほど申しました旧上対馬町庁舎跡地に、幼保連携型の認定こども園としての開園に御理解をいただいているようでございます。

今後は、早期に幼稚園教諭、保育士で、既に開園している認定こども園を視察する予定でございます。また、新施設の運営等に関するワーキンググループを教育委員会、福祉保健部の職員、そして幼稚園教諭、保育士をメンバーとして、年内にも設置するよう準備を進めているところでございます。

次に、ハード面でございますが、建設予定地の測量の完成が26年1月末、地質調査及び施設の実施設計を26年1月に発注予定でございます。子供たちにとって、安心して、そして快適な保育環境が早期に実施されるよう、関係部局と協議を行い、鋭意努力しているところでございます。

次に、御質問のように、認定こども園周辺の環境整備、特に、道路、駐車場の確保は、説明会時に保護者から強い要望が上がっているところでございます。

建設部において、比田勝地内の中央橋の架け替えのための地質調査が現在行われております。国の官舎の間に敷設されている市道——対馬市の道です——比田勝江尻線の改良と、比田勝郵便局裏の既存の建物——市が所有しております倉庫などであります——これを解体することで、郵便局裏への動線が確保でき、通行の安全性も確保されることから、道路整備の必要性を痛感しております。

駐車場につきましては、郵便局裏の対馬市の土地を活用することで、十分なスペースを確保することが見込まれます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 春田議員の御質問に答えさせていただきます。

比田勝の国際ターミナルについてはということでありましたので、国内ターミナルの、今、道路と建物の進捗に齟齬があるじゃないかというふうなお話がありました。

これが完成が同時期にできなかったのかという、素朴な疑問だと思います。市民の皆さんもそのように感じてあると思っております。

この状況というのになりましたのは、当然、同時期に物事が終わることによって、スムーズな利用ということを図るべきであったとは思いますが。県のほうとしましても、今の国際ターミナルが国内ターミナルをある意味使う部分でのことを早期に解消をする必要があるんじゃないかということで、建物のほうを逆に国際ターミナルのことをおもんばかって早めていただいた結果でございます。

道路については、元の予定どおりにこれが進んでいったために、今のような市民の皆さんに利用に不便をきたす、迷惑をかける状況に至っているというふうなことでございます。

そのあたりの事情でございますので、御理解いただければと思っております。当然、道路についても、県のほうの予算との兼ね合い、補助金との兼ね合い等々があつてそのようなことになつ

たということでございます。

もう一点目の、比田勝港湾内の埋め立て地の利用方法の御質問がございました。

今もって舗装もされず、確かに水たまりや砂ぼこりが舞い上がるなど、周辺の住民からの苦情というのも多い中、地区からも毎年陳情が上がっている状況でございます。

そういう中、私どももそのことを全くしないというつもりはないんでございますが、あの場所というのが、どうしても比田勝の港、そして比田勝地区にとっての重要性を考えたときに、舗装をまずもってやってしまったとき、後利用というのに対して、これが単独費で全部やるというやり方だったら、まだお金の無駄というのが市民の皆さんが許されるならばできないことはないとは思いますが、やはり次の補助事業等で次の施設とか、利用計画というものを考えたときに、その計画に支障をきたすような物事のやり方というのも、これもまずいという思いも私どもには働いております。

そういう中、今年度契約をしております観光リゾートイメージ図作成事業というもので、地域の皆様、そして関係者の皆様の協働作業による全体のランドデザインを検討をしていただき、整備計画として、これを反映できれば、そういう方向性を出していただく中でやっていきたいというふうには思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 私の1問に対して、2問の答弁をいただきまして、倍返しということで、本当にありがとうございます。よくわかりました。

まず1点目の、島の中に点在する文化財について、やはり、この文化財も団体がありますので、そこら辺に助成、助長をしてやって、有効に整備、または保存ができるように、今後もやっていただきたい。

私はここで控えておきます。後からされます、船越議員さんがされると思いますので、ここで文化財については終わりますが、あと、伝承芸能について、先ほど言われました、対馬島郷土芸能発表大会ということが12月1日に行われております。

私もちょっと出席はできませんでしたが、市民150人ということで、子供たちも合わせて感応したというような新聞記事でございます。

本当に伝承芸能というのは、やっぱり人が見てすばらしいという感応ということでありますので、子供を中心とした伝承芸能、子供が中央において地域の皆さんが周りを囲んでやるといったようなやり方で進めていけば、まだまだ市長が掲げてあります市民協働のまちづくりにもつながりますし、そういうことにつながっていくと思いますので、そんな小さい事から、原点から戻って、もう一回教育長、考えを改めて力を入れていただきたいというふうに思っております。

それと、あと認定こども園についてでございますが、やはり協議を成された中で、いろいろ保護者、先生方の御意見を聞きながら、現場に出向いて一生懸命努力をされて、努力が実る。努力は必ず実るんです、教育長。それで、皆さんの御意見を聞いた上で決断をする。それを先にするということは、私は一番大事じゃなかろうかというふうに思っております。

私は、全国の大会で、中身は申しませんが講演会で聞いたことがあります。「人間つくれ、土つくれ、作物つくれ」という言葉なんです。本当に、人間ができなければ、幾らいい建物——今、交流センターが仮称で計画されてますが、建物ができても人間ができてなければ、その中身は何もならないんです。人間ができれば、おもてなしはできるんです。そしたら観光客から倍返しで返ってくるわけ。

そういうことをやっぱり考えて、今後、行政側も一生懸命努力をしていただきたいというふうに思っております。

2点目のほうにちょっと少し加えさせていただきますが、私、11月12日、第32回離島振興市町村議会議長全国大会というのに、作元議長の御配慮をいただいて、出席をさせていただきました。

その中で作元議長が決議をされたわけですが、本当に500名、600名の議員さんの参加でございました。その中で国会議員の先生方が一人一人、冒頭挨拶をされました。その挨拶の中に、公明党の遠山先生の挨拶で、私は一つ心に響いたのがありますので、それをちょっと申し上げたいというふうに思います。「島の文化、伝統、これの保存と継承をしていくために国も一生懸命努力をする」ということを挨拶の中で言われました。

それで、私が今回この質問を取り上げたわけですが、本当にそれだけ国境離島、本当に国の国会議員の先生方も一生懸命考えてあるんだということを、しみじみ思いましたので、そこら辺ももう少し力を入れながら、国、県、市とタイアップをしてやっていただければというふうに思ったところでございます。

3点目の埋め立て地の問題は、今まで舗装ができなかった理由、そのわけはよくわかりますが、やはり舗装、あと建物を建てるにしても、その部分切れればいいじゃないですか。切ってやればいいじゃないですか。全部に建物を建てるわけじゃないでしょうから。それか、今利用されているところだけ舗装すると。全部舗装にしろというわけじゃないんです。利用価値があるから、その部分を舗装してくださいということなんですから。

風の日には商店街の中までほこりが入る状態。そしてまた、雨が降れば水たまりができる状態。その水たまりを苦情が出て、活性化センターが整備をしてる状態なんです。

そういう状況の中で、舗装をある程度早めにしていただくことを願いますので、そこら辺ももう少し話を煮詰めてもらって、一日でも早くしていただければというふうに思います。

それと、国内ターミナル。本当に、国際ターミナル、国内ターミナルということで、行政側も大変御努力をされているというふうには思いますが、やっぱり使用するのはお客さんであるわけですから、お客さんのニーズに応えたことをまずもってやらなければ、批判が倍返しということが出てくると思います。

やはり、県のほうもまだまだ道路は工事中で、本当に荷物が上がって、みんなガタガタ道を走っております。そういう状況からすれば、なぜ早くそこにいったのか。道路がある程度めどがたつてから移転というのを考えればよかったのではなかろうかと、我々の考え方はそう思います。その中にいろいろあるかもわかりませんが。

そしてまた、車両を積み込む船のウィング、高圧電力も通っていない仮設の発電機で回している状態なんです。今、工事に入っていました。そういう状況の中で——それは県の仕事なんですけど。

だから、さっき言うように、前回の私の一般質問でも言うたように、県と市との連携はどうなりますかということ、それをきちんとしないから、こういう結果になるのではなかろうかと思っておりますので、そこら辺ももう少し考えを変えていただいて、協力をし合って、スクラムを組んで、そして市民のために応える。これが私は我々政治家であり、行政じゃなかろうかというふうに思っておりますので、そこら辺を議会も一緒になってやっていけばというふうに思います。

きょうは、朝から時間がよく余りますが、そこら辺、市長もう一回どうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まず、比田勝港の埋め立ての問題でございますが、先ほど申しましたように、新たにイメージ図をつくるという作業に入っております。一つの方向性が出た段階で、こちらとしてはあの埋め立て地の分については、最初に取りかかる話だろうと思っております。

恐らくイメージ図の核にもなるだろうと予想はしております。そういう方向が見えた段階で、これを最初に手がけていきたいというふうに考えております。そのことによって、周辺の皆様方に迷惑がかからない手法を見つけ出したいと思っております。

それと、網代側の国内ターミナルの件でございますが、県の事業の進め方というものにも、市のほうから十分にスクラムを組んでというお話でございます。おっしゃられるとおりでというふうにも感じておりますし、極力そのあたりのことで、市民の人たちに御理解いただけるような進め方、そういうふうなことを、また県のほうと詰めていきたいと思っております。

ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 時間がありますので、もう一点だけ、市長のほうにお尋ねをしたいと思っております。

皆さんも御存じのとおり、上対馬発祥の地であります「とんちゃん部隊」。これが全国的に名前を売って対馬をアピールしております。本当に素晴らしいことだと思います。

また、全国大会、豊川で行われましたときに、ここに出席をされております比田勝副市長が隊員として行かれたということで、私は本当に感謝と敬意を表するところであります。本当に実際に行って見て、どうなんだということを実感されて、それからあと、いろいろなものにつなげていかれたらいいなというふうに思います。

それと、この「とんちゃん部隊」、予算もなく、また若い比田勝の青年団を中心とする対馬市の青年、本当に希望ある青年方が一緒になってやっていることについても、我々議会としても、また行政側としてもしっかり取り組んでいかなければならないと思います。

よりあい処つしまもありますが、これ以上の宣伝効果が私は「とんちゃん部隊」あると思います。そこを市長、どのように考えられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） ことし、豊川でありまして、昨年北九州でありました。ことし、先ほどおっしゃられるように副市長に行っていたきまして、去年は私が行きました。

私のときも60万人の人たちが会場に押し寄せる状況でありまして、それこそ無報酬で、行政からの手助けをある意味彼らはひとたび受けると、自分たちの今やっていることが崩れていきそうという思いを持ちながら、本当に一生懸命やっております。

そして、「対馬を、そして上対馬とんちゃんを」というキーワードで全国に発信をしてもらっていること、また、今回は豊川の大会の翌日、TBSの番組に比田勝小学校の子供たちの「とんちゃん部隊」に対する支援のこと、子供たちの思いというのが番組で紹介されました。

まさに、多世代にわたって一つにまとめていく彼らの動きというのはすごいものがあり、私ども市にかかわる者として、市内全体がそのような形で動き出せるようなやり方というのが、またそれは私どもにとっても、一人一人にとっても感じるころはありますし、またお手本にもなる活動だというふうにも感じておるところであります。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 本当にありがとうございます。

副市長も出席されましたが、報告会が花海荘でありまして、そのときに先輩の冒頭挨拶がありました。その挨拶の中が「これだけ若い者と会ったの初めてだ」という挨拶だったんです。それだけ、若い者が一生懸命取り組んで、スクラムを組んでやっているんです。

市としても行政厳しい折でしょうけど、彼らはある程度実費でやっております。これを何とか助成、助長してやって、もっともっと広くにわたりアピールができるようにしていただければというふうに思いますので、そこら辺をお聞きして終わりたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 昨年の彼らの活躍を受けまして、昨年の秋以降、ずっとどのような形で、議会のほうからも、何らかの私ども市として支援ができないものだろうかというふうなお話が、この議会の場でもありました。

それを受けて、私どもも彼らの何か、どういう形で私ども市がかかわれるのだろうか、支援ができるのだろうかという話は投げかけさせていただいたところでもあります。

そういう中、現段階においては、彼らの言葉を借りますと「行政と一線を画す中で活動を続けていってみたい」というふうな話があったもんですから、そういうふうなことの金銭的なことではなく、私どもはできること、今段階は職員も年休を取って、そういう大会等のお手伝いに行ったりも、何人もしてくれています。

そういう形は、気持ちというのがどんどん広がっていったと思いますけども、行政として支援を全くしないというつもりはないんですが、受け手のまず気持ちというのを尊重しようということで、今段階はとどめているところでもあります。

○議長（作元 義文君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） やはり、皆さん今お聞きのとおり、素晴らしい青年が対馬におる。本当に素晴らしい青年を目の当たりにして、我々ももう少し人として、人間として、心を引き締めてやっていかなければならないというふう感じたところでございます。

時間がありますので、ちょっと一点だけ。もう答弁は要りませんので、お話をさせていただきます。

比田勝博多間のジェットfoilの問題であります。混乗特区。我々、比田勝市民としましては、これをあきらめることなく、一生懸命今からも続けていきたいというふうに思いますので、どうぞまた市長のほうにもお願いに上がるかわかりませんが、よろしく願いをいたしまして、11分残りでしたが、私の一般質問とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を1時50分から行います。

午後1時38分休憩

午後1時50分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、16番、大浦孝司君。